



リアルタイムの情報共有で、より充実した支援活動を展開。

お客様：副主任 橋本 裕樹 様（社会福祉法人 足羽福祉会様）

担当者：渡辺 洋子（福井キャノン事務機株式会社）

iPad+ 個別支援記録システム（Smile Kaizen Solution）

■ お客様プロフィール

お客様名 : 社会福祉法人 足羽福祉会
所在地 : 910-2178 福井県福井市柁野町 2 0-7
社員数 : 430 名
事業内容 : 保育所、自立支援、生活介護、就労移行支援、福祉型障害児入所施設、計画相談支援、障害児相談支援、児童発達支援、介護老人福祉、ボランティア育成事業、ほか。
URL : <http://www.asuwafukushikai.jp>

「赤ちゃんからお年寄りまで」

1 人の利用者様が複数のサービスを受けることができ、事業所間でのリアルタイムでの情報共有を通して、連携した支援をスムーズに行っています。「赤ちゃんからお年寄りまで」安心して利用できる総合福祉施設を目指しています。

ソリューション導入前の課題

現場に合わないシステム、一人で複数業務を担うも限界・・・。

足羽福祉会様では、1 人の利用者様が複数のサービスを受けられることがしばしばありました。しかし、当時使用していたシステムでは、現場からの要望が反映できないため、事業所間はもちろん、事業所内でも情報共有が円滑に行えないといった状況でした。利用者様にとって、より良い支援を行うため、福井セルフ協の記録システム開発チームでリーダーでもあった橋本様が、チームで学習していた FileMaker を活用し、利用者様の支援システムを開発されましたが、運用にあたっては、橋本様のメイン業務である利用者様の支援の他、システム開発や運用、6 拠点 30 事業所をつなぐネットワーク環境の構築や管理が必要となることから、メイン業務との両立が困難な状態でした。

Q: 導入前に直面していた課題は、どのようなものでしたか？

A: 当時利用していたシステムでは、現場の声に対応してシステムを修正することができませんでした。柔軟な対応ができず、事業所間はもちろん、事業所内でも連携した支援を円滑に行えませんでした。それでも何とかして利用者様のために、より良い支援を実現してゆきたい、という強い思いを持っていました。

Q: いつ頃、導入をご検討されましたか？

A: 2012 年秋頃、FileMaker との出会いがありました。FileMaker は現場の声に合わせてカスタマイズや機能追加ができることが特長でした。難しい WEB 言語などを知らなくても、これなら望むようなシステムが実現できるのではないかと考えて、システムを開発しました。しかし、メイン業務とシステム開発・ネットワーク管理を一人で担うのは、難しい状況でした。

福井キャノン事務機は福井県で唯一のファイルメーカー社の FileMaker Business Alliance(FBA)パートナーです。



一緒に夢を実現する信頼できるパートナー。

Q: なぜ福井キヤノンから導入しましたか？

A: 県外には FileMaker を扱っている業者さんはいましたが、県内には FileMaker を扱っている業者さんがいませんでした。そんなとき、福井キヤノンさんに FileMaker にすごく詳しい人がいる、ということを知り、ご相談させていただきました。また、実際に会議に参加し、やりたいことに対する理解を深めながら進めてゆく熱心な姿勢を示して下さいしたのは、福井キヤノンさんだけでした。



社会福祉法人 足羽福祉会 様

Q: 御社にとって弊社の担当者はどのような存在ですか？

A: システム開発も運用方法も、夜遅くまで一人で抱え込んで悩んでいたのが、やりたいことやわからないことが相談できる相手が出来たことは、とても心強かったです。今ではどんなことでも相談できますし、信頼している大切なパートナーです。

月に1回開催されている、「システムミーティング」に参加して下さいられているのも大きいです。システムを運用していくうえで、現場の声が直接届き、現場に使いやすいシステムにつながっていると思います。

ソリューション導入後の変化

導入を不安視していた人が、今では一番活用しています。



副主任 橋本 裕樹 様

福井キヤノンが今回ご提案させていただいた個別記録システム。導入後、足羽福祉会様の業務にどのようにお役に立てたでしょうか？お客様の本音を語っていただきました。

Q: 導入して良かった点を教えてください。

A: 実は、システムを導入することで、システム活用に振り回されてしまって、利用者様の支援が手薄になってしまうのではないかと、という不安視された意見もありました。それでも引き継ぎや申し送りなどの連携を高めるために導入しました。結果的に、今ではシステムを利用することが当たり前になり、今まで出来ていなかった連携が、スムーズに行えるようになりました。

Q: 導入後、お困りの点はございますか？

A: システムの仕様の問題ですから仕方ないのですが、強いて言えば記録の量が増えると、フィールドに文字が入りきらないことでしょうか。

Q: 導入後の大きな変化はありましたか？

A: 利用者様を支援するうえで、職員の記録に対する意識が大きく変わりました。ipad から「空いた時間に少しでも情報を記録しよう」といった時間を有効活用する職員の様子がみられます。また、他事業所の申し送りが共有できるようになったことで、コミュニケーションの質が上がり、次の改善へのステップにつながっています。

社会福祉法人 足羽福祉会 様の目指されている業務変革

利用者様の伸びしろを可能な限りに広げたい

今回の個別記録支援システム導入により、複数のサービスを受ける利用者様でも、事業所間での連携したスムーズな支援を実現することができました。「赤ちゃんからお年寄りまで」安心して利用できる総合福祉施設として、利用者様の伸びしろを可能な限り広げてゆけるサービスの提供を続けてゆきたいと考えています。

福井キヤノンお客様担当者紹介

お客様担当者として心がけること

橋本様から、利用者様への強い想いと現場の課題をうかがい、システム開発では「利用者様ひとりひとりの様子が、全ての支援者の目にスムーズに届くこと」を常に心がけました。本当の意味で「情報を共有できるシステム」は、お客様の情熱と問題意識を汲み上げながら、お客様と一緒に創りあげていくものなんですね。



S&S ZERO チーム ICT プランナー 渡辺 洋子

取材日：2014年8月27日

